

關於會話中使用第三人稱代名詞的一考察
—由指示對象的種類分析日文本母語話者與以中文為母語之
日文學習者的異同—

陳熾如

靜宜大學日本語文學系助理教授

摘要

本研究根據日文與中文關於第三人稱代名詞的相異處，針對日文本母語話者與以中文為母語之日文學習者進行會話調查。得到以下結果：日文本母語話者與日文學習者不只對於說話者知道的人物，也確認到對聽話者知道的人物使用第三人稱代名詞（彼・彼女）稱呼的用法。另外，使用第三人稱代名詞之前，導入性別相關資訊的比例相對較高。然而，日文本母語話者很少使用第三人稱代名詞稱呼自己的老師，也未觀察到使用第三人稱代名詞稱呼聽話者的老師的用法。此結果顯示「彼、彼女」不太使用於稱呼上位者。與此相對，日文學習者使用的「彼、彼女」中，用來稱呼說話者的老師比例超過整體的兩成，也觀察到使用第三人稱代名詞稱呼聽話者的老師的用法。也就是說，關於「彼、彼女」的指示對象的種類，日文學習者的使用傾向與日文本母語話者不同，可能受到中文第三人稱代名詞的用法影響。另外，本研究也發現隨著學習者日文能力的提高，第三人稱代名詞的用法逐漸趨近於日文本母語話者的使用傾向。

關鍵詞：第三人稱代名詞、日文本母語話者、以中文為母語之日文學習者、會話調查、指示對象的種類

受理日期：2023年08月31日

通過日期：2023年10月20日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202312_(41).0006

**A Study about The Use of 3rd Person Pronoun in
Conversation : Analyze The Difference between The
Japanese Native Speaker and The Japanese Learner of
Chinese Native Speaker from The Type of Referents**

Chen, Yen-Ju

Assistant Professor, Department of Japanese Language and Literature,
Providence University

Abstract

As for this study, a conversation investigated Japanese native speakers and Japanese learners of Chinese native speakers based on the difference of 3rd person pronoun in both languages. The conclusion is as follow. Both Japanese native speakers and Japanese learners were not only using the 3rd person pronoun for the people whom they knew, but also for someone they did not know. In addition, the percentage was high if the gender information was introduced before the use of 3rd person pronoun. On the other hand, the Japanese native speakers had few uses of the 3rd person pronoun for the teacher of the speaker, and the use for the teacher of the listener was not observed. In contrast, Japanese learners not only used 3rd person pronoun for their teacher more than 20 percent, but also used 3rd person pronoun for the teacher of listener. That means, as to the type of referents, Japanese learners were different form the Japanese native speakers. It might be influenced by the use of Chinese. Furthermore, the Japanese learners gradually approached Japanese native speakers as ability for Japanese improved.

Keywords : The 3rd Person Pronoun, Japanese Native Speakers, Japanese Learners of Chinese Native Speakers, Conversation Investigation, The Type of Referents

会話における三人称代名詞の使用に関する一考察 —指示対象の種類から日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者の異同を分析して—

陳熾如

静宜大学日本語文学系助理教授

要旨

本研究は日中両言語における三人称代名詞の違いに基づき、日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者を対象に会話調査を行った。その結果、日本語母語話者と日本語学習者は共に、話し手知識の人物だけでなく、聞き手知識の指示対象に対しても「彼・彼女」の用法が確認できた。また、「彼・彼女」を使用する前に、性別に関する情報を導入した割合が高いことがわかった。その一方で、日本語母語話者は、話し手の先生に対しての「彼・彼女」の用法が少なく、聞き手の先生に対する用法も観察されなかったため、社会的上位者に対しては、日本語の三人称代名詞は、あまり使用されない結果となった。それに対し、日本語学習者は、話し手の先生に対して、「彼・彼女」の使用割合が2割を超えていただけでなく、聞き手の先生に対しても「彼・彼女」を使用していた。つまり、指示対象の種類に関しては、日本語学習者は日本語母語話者の使用傾向と異なっており、中国語の用法に影響された可能性が窺われた。さらに、学習者の日本語能力が向上するにつれ、日本語母語話者の「彼・彼女」の使用傾向に徐々に近づいてきたことも観察された。

キーワード：三人称代名詞、日本語母語話者、中国語を母語とする日本語学習者、会話調査、指示対象の種類

会話における三人称代名詞の使用に関する一考察
—指示対象の種類から日本語母語話者と中国語を母語と
する日本語学習者の異同を分析して—

陳熾如

静宜大学日本語文学系助理教授

1. はじめに

会話において、三人称の指示対象を指し示す際に、三人称代名詞が用いられる。日本語では、男性の場合は「彼」、女性の場合は「彼女」が使用される¹。それらと同じ意味に相当する中国語は「他(ta)」と「她(ta)」²である。しかし、「彼・彼女」にはいくつかの使用制限が見られる。例えば、下記の二つの似通った場面において、日中両言語における三人称代名詞の用法は異なっている。

(1) A1: 田中君に会ったよ。

B1: {田中って/*彼}³、誰。

A2: {田中君というの/??彼}は、今度入ったドイツ語の先生だよ。

(田窪・木村 1997: 141-143、一部変更⁴)

(2) A1: 我前天碰到了李明。

B1: {李明/??他}、是誰?

A2: {李明/他}是新來的德語老師，你不認識?

(田窪・木村 1997: 141-143、一部変更)

¹ 複数形には「彼ら」、「彼女たち」、「彼女ら」などがある。以下、併せて「彼・彼女」で表す。なお、恋愛関係にある特定の男性または女性を指す「彼」と「彼女」の用法は、本研究では分析の対象外である。

² 中国語の場合にも「他們(tamen)」と「她們(tamen)」という複数形があるが、併せて「他・她(ta)」で示す。

³ 「*」は誤用、「??」は不自然、「?」はやや不自然を意味する。例文はそれぞれの引用元の判定に従う。

⁴ (1)と(2)について、田窪・木村(1997)はそれぞれ2つの例文に分けて説明していたが、本研究は1つの例文で提示することにした。

(1) と (2) の B1 の発話より、話し手が知らない人物に対して言及する際、日本語の「彼」と中国語の「他 (ta)」の用法は共に不自然だとわかった。しかし、A2 の発話の表現を見ると、両言語の表現に違いが見られる。

日本語の「彼」は、話し手が知っている人物でも、聞き手がその人物を知らなければ、使用しにくいのに対し、中国語の「他 (ta)」は使用可能である。つまり、「彼」を使用する際には、中国語と違って、話し手の知識だけでなく、聞き手の知識状態も考慮する必要があるということが示されている。

このような日中両言語におけるの三人称代名詞の違いは中国語を母語とする日本語学習者⁵にどのような影響を与えるのだろうか。本研究では、日本語母語話者と日本語学習者の日本語三人称代名詞の使用実態の共通点と相違点を明らかにした上で、学習者の母語の影響と日本語能力による違いを焦点に検討したい。

2. これまでの記述

三人称代名詞は主に話し手と聞き手以外の第三者の人物を指示する際に使用される代名詞である。しかし、日本語の三人称代名詞は書き言葉や物語文などではよく使用されるが、話し言葉ではほかの指示表現ほど一般的でないという(日本語記述文法研究会 2009)。

(3) 花子が近づいてきた。彼女と会うのは3年ぶりだ。

(日本語記述文法研究会 2009 : 19)

また、「彼・彼女」の用法に関しては、(4)のような話し手と聞き手が共通に知っている人物でない限りは、使用されにくいため、ア系指示詞の用法に近いと述べられている⁶。

⁵ 以下、日本語学習者と呼ぶことにする。

⁶ 詳細は、金水(1989)と日本語記述文法研究会(2009)などをご参照。

(4) A : 田中さんはもう来られました？

B : 一郎は、まだ。彼はいつも時間通りになんて来ないよ。

C : あいつは自由人だからね。(後略)

(日本語記述文法研究会 2009 : 18)

金水(1989)や神崎(1994)において、文脈指示の場合、話し手の既知人物や個体が特定できる人物でないと、「彼・彼女」は用いることができないと指摘されている。

さらに、田窪・木村(1997)においても、(1)のように話し手は知っているが、聞き手が知らない人物の場合、「彼・彼女」の使用に対して一定の導入手続きが必要だとされている。導入手続きとしては、「その要素の存在」、「その要素の名前」、および「その要素の対話の目的に關与的な属性」⁷の三点が挙げられている。そのうち、「その要素の名前」は必須ではないという。

指示対象の種類について、Hinds(1975)、神崎(1994)、岩田(2013)などは、家族メンバー、社会的上位者や公衆人物などに対しては、「彼・彼女」があまり使用されていないと述べている。これに関連して、石出・飯田(2014)は、年長者や上位者などに対し、人称代名詞の代わりに、親族名詞、固有名詞、職業・役職名などが用いられやすいと指摘した。

三人称代名詞の使用実態について、陳(2021、2022)は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス⁸」を用いて、日本語母語話者のインタビュー発話資料を分析した。その結果、インタビューを受けた日本語母語話者の「彼・彼女」は全て話し手が知っている人物を指示していることがわかった。そのうち、ドラマ、アニメや小説など

⁷ 本研究は用語を統一するために、「その要素」を「指示対象」と同じ意味合いで呼ぶことにする。

⁸ 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」は国立国語研究所のプロジェクトにより収集された日本語学習者コーパスである。異なる母語の日本語学習者1000名のインタビュー、ストーリーテリング、ストーリーライティング、ロールプレイ、絵描写課題などが収録されている。さらに、日本語学習者以外にも50名の日本語母語話者の言語資料も収集されている。

の物語の登場人物を指示する割合が最も高く、全体の 5 割弱を占めている。一方で、公衆人物は 8%、社会的上位者の割合は 3%にしか達していない（陳 2021）。さらに、陳（2022）では、「彼・彼女」が使用される前に、全体の 8 割程度の割合で、性別に関する情報が導入済みだと報告されている。

以上のように、「彼・彼女」の用法に関しては、話し手の知識か否か、また、導入手続きの有無に加えて、指示対象の種類にも影響されていることがわかった。では、日本語と比べると、中国語の三人称代名詞にはどのような違いがあるのか。

次の中国語の「他・她（ta）」の用法は日本語との対照の観点からまとめたものであり、主に田窪・木村（1997）、木村（2012）の指摘を参照したものである。

まず、(5) で示されたように、談話開始時に話し手が知らない人物に対して、日中両言語は共に三人称代名詞が使えない。

【聞き手知識の指示対象・導入手続き前】

(5) 日本語：*彼、誰。

中国語：??他、是誰？ （= (1) (2) 一部再掲）

また、日本語の「彼・彼女」は、話し手が知っている人物でも、一定の手続きで指示対象を導入しないと使用できないが、中国語の「他・她（ta）」は、話し手の知っている人物であれば使用可能という違いがある。

【話し手知識の指示対象・導入手続き前】

(6) 日本語：??彼は、今度入ったドイツ語の先生だよ。

中国語：他是新來的德語老師。（= (1) (2) 一部再掲）

さらに、田窪・木村（1997）では、話し手が知らない人物であれば、仮に導入手続きが行われたとしても、日本語の「彼・彼女」は依然として用いられにくいのが、中国語の「他・她（ta）」は、導入後使用可能になるという違いも指摘されている。

【聞き手知識の指示対象・導入手続き後】

(7) A1：ドイツ語のわかる人を探しているんですが。

B1：それなら、うちの科にいいのがいますよ。若い男性だ
けど、今度、連れてきましょう。

A2：?彼、通訳したことがありますか。

(田窪・木村 1997：138)

(8) A1：我在找懂德語的人。

B1：我們班有一個會德語的男同學，下一次我給你介紹一下。

A2：他做過翻譯沒有？

(田窪・木村 1997：139)

以上をまとめると、日本語では、話し手が知っている人物であり、
なお且つ、一定の導入手続きをした後に、「彼・彼女」が使用でき
るようになる。それに対し、中国語では、導入手続き前の話し手が
知らない人物の場合を除き、「他・她 (ta)」の用法は自然である。

また、木村 (2012) では、文脈指示において、目上の人に対し、
「他・她 (ta)」で指し示す用法が頻繁に観察されたと述べている。
つまり、「他・她 (ta)」は、日本語の「彼・彼女」のような目上
の人に対する使用制限がないと言えるだろう。

以上を踏まえた上で、日中両言語の三人称代名詞の違いは、下記
のようにまとめられる。

表 1 日中両言語における三人称代名詞の使用上の違い

(筆者作成、網掛けの部分は使用可能である)

		日本語	中国語
話し手知識の指示対象	導入手続き後	彼	他
	導入手続き前	??彼	他
聞き手知識の指示対象	導入手続き後	?彼	他
	導入手続き前	*彼	??他

なお、本研究は主に話し手と聞き手の共通知識・共通体験以外の指示対象を分析するため、以下、「話し手知識の指示対象」という用語を用いて、話し手は知っているが、聞き手が知らない人物を指すことにする。逆に「聞き手知識の指示対象」に関しては、話し手が知らない人物と同じ意味合いとして使用する。

3. 問題提起

3.1 問題の所在

コーパスのインタビュー資料をもとに、日本語母語話者による三人称代名詞の使用実態を調査した研究は、陳（2021、2022）がある。しかし、インタビューという発話形式は、調査協力者がインタビュアーの方に質問をする場面が少ないため、聞き手知識の指示対象をどのように指示するかは明確になっていない。

また、日中両言語における三人称代名詞の用法に相違点があるが、中国語を母語とする日本語学習者の「彼・彼女」の使用実態にどのような影響があるのかについても明らかになっていない。日本語学習者の母語の影響や日本語能力による違いという観点から考察する必要があると考えられる。

そこで、本研究では日本語母語話者と日本語学習者がいかに「彼・彼女」を使用するかを調べるために、会話調査を実施することにした。会話調査は、事前に課題を設けることにより、話し手知識の人物だけでなく、聞き手知識の指示対象に言及する場面を作ることができる。その上で、指示対象の種類も絞ることが可能である。

3.2 本研究の着眼点

3.2.1 性別に関する情報について

先行研究によると、話し手が知っている人物であっても、「彼・彼女」で指し示す前に、一定の手続きで導入する必要がある。しかし、どのような属性が「対話の目的に関与的な属性」なのかは曖昧

であり、どのような状態において、導入手続きが完了したと言えるか、明白な基準があるとは言えない。

三人称代名詞には、男性と女性の区別があるため、性別情報が分からない限り、そもそも「彼・彼女」が使用できない状態である。よって、本研究では分析するにあたって導入手続き前・後の代わりに、話し手が指示対象の性別を知っているか否かに着目したい。

本研究は、陳（2022）の分類を参考に、直接的に男性か女性かという性別に関する属性が述べられた場合と男子名、女子名や公衆人物の名前など、間接的に性別が推測できる場合を併せて「性別情報あり」と記載し、文脈から指示対象の性別が判断できない場合は「性別情報なし」と記載することにする。

3.2.2 指示対象の種類について

Hinds（1975）、陳（2021）などでは、指示対象が社会的上位者と公衆人物の場合において、「彼・彼女」があまり使用されない現象を述べていた。そのため、本研究では、会話調査の指示対象として、目上の「先生」、目上の人物以外の「友達」、及び好きな歌手や作家などの「公衆人物」の三種類に選定し、以下の課題を設けた。

課題 1：会話において日本語母語話者が使用した「彼・彼女」は「性別に関する情報」と「指示対象の種類」とどのように関わっているかを検証する。

課題 2：日本語学習者が使用した「彼・彼女」は、日本語母語話者とのような共通点と相違点があるかを明確にし、学習者の母語と日本語能力による影響に焦点を当てて考察する。

先行研究の指摘によると、日本語母語話者の方は性別に関する情報が導入された話し手の友達に対しては「彼・彼女」が用いられやすくなると予想できる。それに対し、中国語では、指示対象の性別が分からない場合のみ「他・她（ta）」の使用ができないため、母語の影響を受けたとすれば、日本語学習者は性別情報がわかった場合、

指示対象が目上・目下を問わず、三人称代名詞を使用するのではないかと考えられる。

3.3 調査方法

調査は 2022 年 9 月から 11 月にかけて、日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者を対象に実施した。調査協力者は台湾中部の P 大学に在籍する日本人留学生と交換留学生の 30 名、及び P 大学日本語学科の 1 年生から 4 年生の日本語学習者の 30 名である⁹。

日本語学習者のうち、日本語能力試験 N2-N1 相当¹⁰、または筑波日本語テスト集 SPOT90 の点数が 76 点以上である学習者達を上位グループに分類した。日本語能力試験 N3 以下、または SPOT90 の点数が 75 点以下の学習者達は下位グループに分類した。上位グループ、下位グループそれぞれ 15 名ずつである。

日本語母語話者と日本語学習者はペアを作り、調査開始前に各ペア同士が知り合いではないことを確認した。

研究者が教示文を提示し、調査協力者にお互いに聞き合うように指示をした。教示文は以下の通りである。

【教示文】

まず、簡単に自己紹介してから、話題 1 から話題 3 の順に会話を始めてください。できるだけ普段の話し方に基づいて、会話を進めてください。

話題 1：話し相手に仲がいい友達がいるか聞いてください。

話題 2：話し相手に印象に残った先生がいるかを聞いてください。

話題 3：話し相手に好きな歌手（俳優、作家…）がいるかを聞いてください。

⁹ 日本語学習者は全員台湾で日本語を勉強している学生であり、留学や実習などの長期間日本に滞在した経歴を持っていない。

¹⁰ JLPT や J-test などの日本語能力試験の成績証明書を持っていない学習者は筑波大学のオンライン日本語試験で日本語能力の判定を行った。

一つのグループにつき約 20 分程度、合計 30 本の会話資料¹¹を録音した。調査終了後、録音した会話資料の文字起こし¹²作業を行い、三人称代名詞を前後の文脈と一緒に抜き出し、EXCEL 上にて整理を行った。文字化した資料を話し手知識と聞き手知識に分類した上で、「指示対象の種類」および「性別に関する情報の有無」という観点から分析を行った。次節は調査結果について述べる。

4. 会話における「彼・彼女」の使用について

会話調査を実施した結果、「彼・彼女」の使用件数は、日本語母語話者が 37 件、日本語学習者が 79 件であった。そのうち、同一人物に対し、「彼・彼女」が繰り返し使用される件数は、日本語母語話者が 10 件(全体の 27.0%)、日本語学習者が 38 件(全体の 48.1%)であった。つまり、「彼・彼女」の使用件数並びに繰り返し使用した割合は共に、日本語学習者の方が日本語母語話者を上回ったことがわかった。会話調査の結果は表 2 のようにまとめた。

表 2 会話調査の結果 (件数 (割合))

		日本語母語話者	日本語学習者
話し手知識	公衆人物	14 (37.8%)	30 (38.0%)
	友達	13 (35.1%)	25 (31.6%)
	先生	2 (5.4%)	18 (22.8%)
聞き手知識	公衆人物	2 (5.4%)	3 (3.8%)
	友達	6 (16.2%)	1 (1.3%)
	先生	0 (0.0%)	2 (2.5%)
合計		37 (100%)	79 (100%)

¹¹ 会話時間は各グループの話題進行によって 8 分から 30 分程度の幅がある。

¹² 会話に出現した実名等は、読み手が特定の人物だと認識できないように全て暗号化して表記した。文字起こしの作業は研究者以外に日本語母語話者 1 名と日本語学科大学院生 1 名が担当していた。一本の会話資料につき、研究者を含む 2 名以上の確認を得て決定された。例文の提示について、音声音、フィラー、あいづちなど、発話内容に関係のない項目は表記しないことにする。誤用など非文法的な表現は意味理解に支障がない限り、訂正しないことにした。

表 2 より、日本語母語話者と日本語学習者は共に、話し手知識の指示対象だけではなく、聞き手知識の指示対象に対して、「彼・彼女」を使用したことが示されている。次に日本語母語話者と日本語学習者の使用実態を分析する。

4.1 日本語母語話者の結果

知識の所属という観点から見ると、日本語母語話者の三人称代名詞の使用割合の 8 割は、話し手知識の指示対象を指している用法である。しかし、指示対象の種類については、違いが見られる。

表 2 で示されたように、日本語母語話者が「彼・彼女」を用いて指示する指示対象で最も多かったのは、「話し手知識の公衆人物」であり、その次に多いのは「話し手知識の友達」である。

【話し手知識の公衆人物】

- (9) J: 名前は【韓国のグループ名】 とか。(中略) 日本のアイドルと違って歌の、曲のリズムとか、後、彼らのダンスがすごい、かっこいいと思って。

(会話資料 J30-C30) ¹³

【話し手知識の友達】

- (10) J: 一番仲がいい友達は、〇〇大学の一年生の時に知り合った K 君【友達の名前】。

C: K 君、どんな友達ですか。

J: (前略) 彼がすごいバイク好き、だから、僕もバイクの免許を、ライセンス取りました。

(会話資料 J07-C07)

¹³ J は日本語母語話者、C は中国語を母語とする日本語学習者の略称であり、通し番号は会話調査の資料番号である。J30 は 30 番目の会話資料の日本語母語話者の発話を示す。

一方で、目上の先生に対し、「彼・彼女」を用いたのは2件(5.4%)のみ確認されたが、すべてが話し手知識の先生を指す用法であった。

【話し手知識の先生】

(11) (J29 と C29 がお互いの先生について話している)

C: Jさんのこの先生はどんな人ですか?

J: えっと、彼女はすごく明るくて優しいです。

(会話資料 J29-C29)

田窪・木村(1997)によると、聞き手知識の指示対象に関しては、談話開始時に話し手が知らない人物の場合、導入手続きの有無を問わず、日本語母語話者は三人称代名詞を使用しないはずである。

しかし、今回の会話調査では、日本語母語話者は「聞き手知識の先生」に対し、三人称代名詞を使用していなかったものの、「聞き手知識の友達」並びに「聞き手知識の公衆人物」に対しては、「彼・彼女」を用いていたことが確認できた。

【聞き手知識の公衆人物】

(12) C: 【声優の名前】って言います。(中略)本当は歌声がとても綺麗。

J: じゃ、アニメで知って、好きになったんじゃないくて、歌っているのを見て好きになった。そんなんだ。何で彼を知りましたか。

(会話資料 J23-C23)

【聞き手知識の友達】

(13) J: なんか仲のいい友達はいますか?

C: ある男性がいます。一年生の時から、一緒にバレーボールをします。(中略)

J: 彼は、一年の時からずっと仲良し?

(会話資料 J29-C29)

目上の「先生」に対して、指示対象が話し手知識の場合は、「彼・彼女」の使用件数が少なく、聞き手知識の場合は、使用されていないため、Hinds(1975)、神崎(1994)及び陳(2021)の指摘を支持する結果となった。

しかし、「公衆人物」に関しては、先行研究の指摘に反して、多く使用された結果となった。これについては、今回の調査で話題にした公衆人物は歌手、俳優や作家などの有名人であることに関連すると考えられる。有名人の場合、話し手にとって親近感を持たせるだけでなく、聞き手もおそらく知っているだろうと推測する可能性も高いからである。

さらに、「友達」と「公衆人物」は、話し手にとっては目上以外の指示対象であるという共通点がある。つまり、話し手知識だけでなく、聞き手知識の指示対象でも、目上以外の人物であれば「彼・彼女」が用いられることが明らかになった。

次に、性別に関する情報と日本語母語話者による「彼・彼女」の使用との関連について分析する。

なお、繰り返し使用された「彼・彼女」の用法は必然的に性別に関する情報が含まれているため、ここでは分析の対象外とした。

- (14) J: 彼女(一回目の使用)はダブルディグリーっていう。
A 知県立大学と P 大学の二つの大学を卒業したっていう
証明がもらえる留学のプログラムで来てて、彼女(繰り返し使用)は S 大学で卒業するっていう留学の感じで。

(発話資料 J12-C12)

日本語母語話者が使用した 37 件の「彼・彼女」のうち、繰り返し使用された 10 件を除くと、27 件となる。表 3 のようにまとめられる。

表 3 からわかるように、性別情報ありの用法は 81.5%であり、性別情報が含まれていない用法よりも高い割合を占めていることがわかった。

表 3 【日本語母語話者】性別情報の有無と指示対象の種類との関わり（件数（割合））

	性別情報なし	性別情報あり
公衆人物	0 (0.0%)	10 (37.0%)
友達	3 (11.1%)	12 (44.5%)
先生	2 (7.4%)	0 (0.0%)
合計 (n=27)	5 (18.5%)	22 (81.5%)

「公衆人物」と「友達」の場合は、性別に関する情報を導入した後に「彼・彼女」を使用した割合が高い。

【友達・性別情報なし】

(15) C: Jさんはいい、仲がいい友達がいますか。

J: はい。私の仲がいい友達も、高校生の同級生で、彼女は私と同じクラスで、その時にすごく仲良くなりました。
(発話資料 J29-C29)

【友達・性別情報あり】

(16) C: うん、ええ、あなたも仲がいい友達がいますか？

J: はい、高校生のときの女の子の友達で、彼女は北京、中国の北京っていう場所に8年間住んでて、だから中国語が上手。
(発話資料 J21-C21)

特に、「公衆人物」については、(9)と(12)のように芸能人の名前やグループ名を紹介することにより間接的に性別情報が導入されているため、性別情報が含まれていない「彼・彼女」の用法は観察されなかった。一方で、「先生」に関しては、使用された件数は2件のみであるが、2件とも(11)のような性別に関する情報が含まれていない用法であった。しかし、このような目上の人物に対する用例が少ないため、性別に関する情報の有無との関わりについては更に調査する必要があるだろう。

4.2 日本語学習者の結果

今回の会話調査では、日本語学習者が使用した「彼・彼女」の9割以上が話し手知識の指示対象であり、聞き手知識の指示対象は全体の1割にも満たなかった。

表2の結果から、日本語学習者による「話し手知識の公衆人物」及び「話し手知識の友達」に対する用法が最も多かった。

しかし、目上の先生に対する用法も20件確認され、そのうち「話し手知識の先生」に対しては18件(22.8%)、「聞き手知識の先生」に対しては2件(2.5%)の三人称代名詞が使用されている。

【話し手知識の公衆人物】

(17) C: 私は好きな俳優は【女優名】という女優です。なぜ彼女が好きなのか、私もよくわかりませんが。

(会話資料 J16-C16)

【話し手知識の友達】

(18) J: Cさんのお友達はどういう方?

C: 私の友達は、ちょっと静かな人です。(中略) 彼は私より年下です。

(会話資料 J19-C19)

【話し手知識の先生】

(19) J: Cさんは、印象に残った先生はいますか?

C: えっと、日本語学科のC先生は私のクラスの…

J: 担任、担当の先生?

C: はい、そうです。彼は少し厳しいですけど、でも人はいいです。

(会話資料 J29-C29)

聞き手知識の指示対象に対しては、日本語学習者が使用した「彼・彼女」の割合は日本語母語話者を下回るが、「公衆人物」、「友達」に加え、聞き手知識の先生に対しても使用が確認できた。

【聞き手知識の公衆人物】

(20) J: 男性アイドルは結構ジャニーズの人が多いんですけど、ジャニーズの【グループ名】っていうグループが好きですね。ふふ。(中略)

C: 将来…彼らに見たいんですか。

(会話資料 J21-C21)

【聞き手知識の友達】

(21) C: あの子は名前はなんですか？

J: RK さん【友達の名前】。

C: RK ですか。昨日、一緒に食べ、晩ごはんを作りました。(中略) 彼女は私の友達、後輩のチューターです。

(会話資料 J15-C15)

【聞き手知識の先生】

(22) J: 女性の方で、その先生は結構山登りが好きなので、私と趣味があって、はい。(中略)

C: じゃ、あの先生授業の時は英語を使いますか？

J: あ、英語結構使います。ちょっと初心者のビギナークラスなので。

C: 彼女は日本語ができますか？ (会話資料 J15-C15)

(20) の聞き手知識の公衆人物に対する「彼・彼女」の用法は、日本語母語話者の産出にも見られている。特に「公衆人物」については、名前から間接的に性別が推測できることに加え、有名人の場合だと、ある程度その人物に対する知識が喚起できることも考えられる。

(21) は聞き手知識の友達に対して「彼・彼女」で指す用法である。日本語学習者は、指示対象の名前から話題人物が既知人物であることに気づいたケースである。つまり、話し手と聞き手の共通の友達とは言えないが、話し手にとって知っている人物と見做し、「彼・彼女」を使用したのではないかと考えられる。

(22) に関しては、日本語母語話者が自分の先生を「その先生」で指示したのに対し、日本語学習者は自身が知らない話題人物であったにも関わらず、最初は「あの先生」と表現し、それ以降の会話では「彼女」と指示した例である。「あの先生」は使用する際に、話し手の既知情報もしくは話し手と聞き手の共通知識である必要があるが、「彼女」は上記条件に加え、更に目上の人に対する使用制限が確認できたため、いずれも不適切な表現として考える。

次に、性別に関する情報の有無という観点から、日本語学習者の「彼・彼女」の使用を分析する。日本語母語話者の分析と同様に、1回目の使用に限定して、分析をする。繰り返し使用の38件を除くと、41件となる。表4はその結果を示す。

表4 【日本語学習者】性別情報の有無と指示対象の種類との関わり (件数 (割合))

	性別情報なし	性別情報あり
公衆人物	0 (0.0%)	18 (43.9%)
友達	8 (19.5%)	5 (12.2%)
先生	5 (12.2%)	5 (12.2%)
合計 (n=41)	13 (31.7%)	28 (68.3%)

【友達・性別情報なし】

(23) J: いつの友達ですか。

C: 高校時代友達です。

J: なんで仲良くなったんですか。何がきっかけでその友達と仲良くなったんですか。

C: 同じ部活、同じの趣味で。私の(→は) 彼女は(→と)、何回もおしゃべりして、最後は友達になりました。

(発話資料 J11-C11)

【友達・性別情報あり】

(24) J: Cさん、仲がいい友達はいますか。

C: はい、います。私はクラスメイトと仲良しと
思います。可愛い女と
思います。最初は
ルームメイトから
だんだん、関係が
いい、よく良くな
りました。彼女
は名前は【Cの友
達の名前】、私の
名前は【Cの名前
の中国語の発音】
。同じの字があり
ますから、面白
いと思って。だ
んだん良くなり
ました。

(発話資料 J12-C12)

表4の結果より、日本語学習者が使用した「彼・彼女」は性別に関する情報を導入した後に使用する場合が多く、この点に関しては、日本語母語話者と共通していることがわかった。しかし、割合に着目して言えば、日本語学習者による性別情報なしでの使用割合が全体の3割程度を占めている。これは、日本語母語話者の18.5%よりも高い結果となる。特に、指示対象が「友達」の場合は、性別に関する情報を含まない用法の割合が高いことがわかった。

つまり、会話における日本語学習者の「彼・彼女」の用法に関しては、日本語母語話者ほど性別情報との関連性が少ないと言えるだろう。

以下、日本語母語話者と日本語学習者の異同を先行研究に基づいて検証し、学習者の母語の影響と日本語能力による違いを焦点に考察を行う。

5. 考察

5.1 日本語母語話者とどのような共通点と相違点が見られるか

日本語母語話者と日本語学習者は共に話し手知識の人物に対する「彼・彼女」の使用頻度が高く、導入手続きに関しては、性別に関する情報が導入されてから使用される割合が高いため、陳(2022)の結論を支持する結果が示された。

また、数が少ないにも関わらず、日本語母語話者と日本語学習者学習者が共に聞き手知識の公衆人物及び友達に対して「彼・彼女」を使用する様子が見られている。これは金水（1989）、田窪・木村（1997）などの話し手が知らない指示対象に三人称代名詞は使用できないという指摘に反した結果である。

言い換えると、聞き手知識の指示対象で、性別に関する情報が導入された同輩や目下の人に対しても、「彼・彼女」を使用できる場合もあるということである。

一方で、日本語学習者が使用した「彼・彼女」は日本語母語話者の用法に比べ幾つかの違いが観察された。

「話し手知識の先生」に対しての「彼・彼女」の使用件数について、日本語母語話者は2件（5.4%）しか観察できなかったのに対し、日本語学習者は18件（22.8%）見られた。さらに、日本語母語話者は「聞き手知識の先生」に対し、「彼・彼女」が使用されなかったが、日本語学習者の発話では観察されている。

日本語母語話者が目上の人に対して使用した「彼・彼女」の使用例が少なかったため、Hinds（1975）、神崎（1994）などで指摘した指示対象の制限と一致する結果が示されている。

しかし、日本語学習者に関しては、日本語母語話者より「彼・彼女」を高い割合で目上の指示対象に使用していたため、「指示対象が目上かどうか」による影響が観察されたとは言えない。

このような目上の人に対する「彼・彼女」の用法は、先行研究で述べた日本語の三人称代名詞の使用制限に反しているだけでなく、陳（2021）のコーパス調査の結果と今回の会話調査での日本語母語話者の発話でも使用割合が低いため、日本語学習者は、教科書や周りの日本語母語話者のインプットなどから接する機会が少ないと思われる。

さらに、木村（2012）では、中国語の三人称代名詞の「他・她（ta）」は、文脈指示では、目上の人に対しても多く使用されていることが指摘されていることから、日本語学習者の「彼・彼女」の用法は、

目標言語の用法と異なる中国語の「他・她 (ta)」の用法に影響を受けた可能性があると考えられる。

5.2 日本語能力によって異なる傾向が見られるか

次に、三人称代名詞の用法は、学習者の日本語能力の違いにより異なる傾向が見られるのかを検討する。

まず、知識の所属と指示対象の種類に基づいて、下位グループと上位グループの三人称代名詞の使用件数を表5のようにまとめた。

表5 指示対象の種類と学習者の日本語能力との関わり (件数)

		下位グループ	上位グループ	合計
話し手 知識	公衆人物	19	11	30
	友達	23	2	25
	先生	11	7	18
聞き手 知識	公衆人物	2	1	3
	友達	1	0	1
	先生	2	0	2
合計		58	21	79

表5の結果より、上位グループの「彼・彼女」の使用件数は下位グループに比べ減ったと言える。

上位グループでは、聞き手知識の指示対象に対する「彼・彼女」の用法は「聞き手知識の公衆人物」の1件しか観察できなかった。そのため、上位グループの学習者は、聞き手知識の指示対象に対して、あまり「彼・彼女」で指し示さないことがわかった。

また、上位グループの学習者は「話し手知識の先生」に対する用法も減り、「聞き手知識の先生」に対しても、「彼・彼女」が使用されなかった点も踏まえ、日本語母語話者の使用傾向に近づいてき

たと言えるが、指示対象の種類（公衆人物、友達、先生）すべてにおいて、使用数が減少した傾向が観察できる。

上位グループの学習者は三人称代名詞の使用数が減ったのは、単に話題人物を指示することを避けていた可能性もあるが、三人称代名詞を使用しないで、他の言語表現を使用したことも考えられる。それを明らかにするために、次の表 6 で、下位グループ、上位グループ及び日本語母語話者が話題人物を指示する際に使用したすべての言語表現を集計した。網掛けの部分は使用割合が最も高い項目を示す。

表 6 会話調査から見る話題人物に用いられる言語表現（割合）

	三人称 代名詞	指示詞	固有 名詞	裸の 名詞	名詞 修飾語	数量詞
下位	29.0%	18.5%	27.0%	16.0%	7.0%	2.5%
上位	8.8%	33.6%	23.1%	22.3%	8.4%	3.8%
母語話者	7.9%	41.7%	28.8%	9.5%	9.3%	2.8%

表 6 では、上位グループは下位グループに比べると、顕著的に指示詞の使用割合が増加する一方で、代名詞の割合が減少したことが確認できた。つまり、上位グループの三人称代名詞が減少した理由は、日本語能力が上がるにつれて、代名詞の代わりに他の表現形式が使用できるようになったのではないかと考えられる。

次に性別に関する情報の有無という観点から、上位グループと下位グループの違いを分析する。

4.1 の分析では、日本語母語話者が使用した 1 回目の「彼・彼女」のうち、81.5%の割合で、性別情報が含まれていることがわかった。日本語学習者による 1 回目の「彼・彼女」の用法もレベル別でまとめると、以下の表 7 が得られた。

表 7 性別に関する情報の有無と学習者の日本語能力との関わり
(性別情報なしの件数／性別情報ありの件数)

	下位グループ	上位グループ
公衆人物	0/14	0/4
友達	7/4	1/1
先生	4/4	1/1
合計 (n=41)	11/22	2/6
性別情報ありの割合	66.7%	75.0%

表 7 より、上位グループは下位グループに比べ、指示対象の種類を問わず、「性別情報あり」の割合が高いことがわかった。つまり、「彼・彼女」が使用される前に、性別情報の有無に関しては、学習者は日本語能力の上昇により、日本語母語話者の使用傾向に近づいてきたと言えるだろう。

しかし、本研究では 1 回目の使用のみを分析の対象にしたため、上位グループによる三人称代名詞の使用件数自体は少なく、はっきりした傾向が観察されたとは言い難い。今後はほかの研究手法を用いて、更なる検討が必要であろう。

6. 終わりに

本研究は、日中両言語の三人称代名詞の異同に着目し、会話調査という研究方法を用いて、日本語母語話者と日本語学習者が使用した「彼・彼女」に焦点を当てて分析をした。結果、以下のことがわかった。

日本語母語話者と日本語学習者は共に話し手知識の指示対象だけでなく、聞き手知識の指示対象に対しても「彼・彼女」を使用していたこと、さらに性別情報が導入された割合が高いことがわかった。課題 1 に関して、日本語母語話者は、「話し手知識の先生」に対する「彼・彼女」の使用割合が低い。聞き手知識の指示対象に関しては、性別に関する情報が導入された「聞き手知識の友達」並び

「聞き手知識の公衆人物」に対し、「彼・彼女」を使用しているが、「聞き手知識の先生」に対する用法が観察されていない。つまり、性別に関する情報が導入されていても、日本語母語話者は目上の人（特に、聞き手にとって目上の人）にあまり「彼・彼女」を使用しないことが確認できた。

課題2に関しては、日本語学習者の発話では、日本語母語話者と比較して、全体的に使用件数は多いが、性別に関する情報の導入割合が日本語母語話者よりも低い結果が得られた。また、指示対象の種類に関しては「話し手知識の先生」に対しての使用割合が高いことに加え、「聞き手知識の先生」に対しても「彼・彼女」の用例が観察されたため、母語の影響が窺われた。さらに、このような現象は、下位グループの日本語学習者の発話内でより高い割合で使用されたことから、「彼・彼女」の使用に関しては、学習者の日本語能力による影響が関係すると言えるだろう。

以上のように、本研究では、先行研究の指摘を検証しながら、日本語母語話者と日本語学習者の三人称代名詞に影響を与える要因を分析した。しかし、話し手と聞き手のどちらかが知らない人物しか分析しておらず、指示対象の種類も限られているため、三人称代名詞の全用法を解明したとは言えない。また、本研究の会話調査は、日本語母語話者と日本語学習者がペアになって行われた会話であり、中にはフォリナートークを使った日本語母語話者もいたため、必ずしも母語話者同士の会話と同じとは限らない問題点も残されている。今後、母語話者同士の会話も調査する必要がある、さらに、指示対象の種類を増やした上で、検討していきたい。

参考文献

岩田一成（2013）『日本語数量詞の諸相』、東京、くろしお出版

石出靖雄・飯田晴巳（2014）「学校文法—＜代名詞＞の取り扱い—」

中川緑朗・飯田晴巳（監修）『品詞別学校文法講座【第二巻】

名詞・代名詞』、東京、明治書院 pp.308-314

- 神崎高明（1994）『日英語代名詞の研究』、東京、研究社出版
- 木村英樹（2012）『中国語文法の意味とカタチ―「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究』、東京、白帝社
- 金水敏（1989）「代名詞と人称」北原保雄編『講座日本語と日本語教育第4巻日本語の文法・文体（上）』、東京、明治書院 pp.98-116
- 田窪行則・木村英樹（1997）「中国語、日本語、英語、フランス語における三人称代名詞の対照研究」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』、東京、くろしお出版 pp.137-152
- 陳嬾如（2021）「インタビューにおける日本語母語話者による三人称代名詞の産出について―話し手と聞き手の知識と指示対象の特徴から分析して―」『靜宜語文論叢』第13巻第1期、台中、靜宜大學外語學院 pp.1-22
- 陳嬾如（2022）「日本語母語話者による三人称代名詞の使用傾向と容認度について―性別に関する情報の有無から分析して―」『台大日本語文研究』第43期、台北、台灣大學日本語文學系 pp.117-139
- 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法7：第12部談話 第13部待遇表現』、東京、くろしお出版
- Hinds, J.(1975) Third person pronouns in Japanese. In Fred C. C. Peng ed.. *Language in Japanese society: Current issues in sociolinguistic*. University of Tokyo press. pp. 129-157

付記

本論文は国家科学及技術委員会（NSTC）民国111年度の專題研究計画「關於日文第三人稱代名詞的研究」（課題番号：MOST111-2635-H-126-001、研究代表者：陳嬾如）の成果の一部である。会話調査にご協力いただいた参加者の皆様、そして貴重なご意見をくださった査読者の方々に心より感謝申し上げます。